



Suiseki | Mount Analogue Ryo Ohwada



水石

類推の山

大和田良写真展

2026年
10月24日(土)

11月29日(日) [休館日] 木曜日

[会場] さいたま市大宮盆栽美術館 企画展示室

[主催] さいたま市大宮盆栽美術館

[協力] 株式会社モデルノ



さいたま市

大宮盆栽美術館

水石

類推の山

大和田良写真展



2026年10月24日(土) ——— 11月29日(日)

〔開館時間〕 9:00～16:30 (10月) / 9:00～16:00 (11月) ※入館は30分前まで

〔休館日〕 木曜日

〔観覧料〕 一般: 310円 (200円) / 高大生・65歳以上の方: 150円 (100円) / 小中学生: 100円 (50円)

※障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は半額 ※()内は、20名以上の団体料金

写真家・大和田良による展覧会「水石／類推の山」を開催いたします。2011年、さいたま市大宮盆栽美術館の写真作品展シリーズ第1回の「盆栽 × 写真 vol.1 大和田良写真展」で、大和田は同館所蔵の盆栽を撮影した「FORM—SCENERY SEEN THROUGH BONSAI—」を発表しました。盆栽の姿に雄大で厳かな風景を見いだしたその試みを経て、本展では水石へ眼差しを向けます。

水石の文化は、自然石の形や肌理のなかに山水、草庵、人影などを見いだす「見立て」の美学に支えられています。それは単なる縮景や外形の類似ではなく、観察と想像の往還によって、小さな物質から広大な空間をひらく営みです。長い時間に磨かれた石は、石であると同時に山となり、物語の舞台となります。大和田は、石に刻まれた微細な起伏や亀裂をたどり、自然風景と組み合わせることで、可視と不可視を結ぶ「類推」の働きを写真に探ります。

実景の稜線は石のエッジと重なり、石の亀裂からは巨大な断崖が立ち現れます。レンズを介して両者の輪郭が侵食し合うとき、スケールは揺らぎ、風景の起点は判別できなくなります。今回、大和田が思考の補助線としたのが、ルネ・ドーマルの未完の小説「類推の山」です。通常の知覚から隠され、特殊な条件でのみ到達できる神秘的な山は、水石をめぐる見立ての構造と深く響き合います。

現実との接触と光の痕跡をとどめる写真は、石という物質と、そこから喚起されるイメージのあいだを往還します。本展は、世界を記録するための旅ではなく、私たちが世界をいかに経験するのかをたどる冒険でもあります。

大和田良は1978年仙台市生まれ。東京工芸大学芸術学部写真学科を卒業し、同大学院メディアアート専攻を修了。2005年、スイス・エリゼ美術館「reGeneration. 50 Photographers of Tomorrow」に選出され、2011年に日本写真協会賞新人賞を受賞しました。盆栽、ワイン、剥製、活字、植物など多様な対象の背景にある歴史や美意識をすくい上げ、写真の新たな表現を探究し続けています。石という静かなる自然の断片が、見る者の想像力によって広大なランドスケープへと転じる瞬間。その「知覚の地形」を、ぜひ会場でご覧ください。

講演会 巖谷國士 —『類推の山』とは何か

〔講師〕 巖谷國士

仏文学者、美術批評家、写真家。明治学院大学名誉教授。ルネ・ドーマル『類推の山』(河出文庫)翻訳者。

〔日時〕 11月1日(日) 14:00～15:30(開場 13:30)

〔会場〕 講座室 〔定員〕 40人 〔費用〕 無料

〔申込〕 10月13日(火) 12時から、さいたま市生涯学習情報システム (<https://gakushu.city.saitama.jp/>) にて受付(先着順)。

大和田良ギャラリートーク

〔日時〕 10月25日(日)、11月15日(日) 各日 13:30～

〔会場〕 企画展示室

※当日有効の観覧券をご用意の上、ロビーにお集まりください。事前申込みは不要です。

さいたま市
大宮盆栽美術館
Bonsai Art Museum

〒331-0804 埼玉県さいたま市北区土呂町 2-24-3
Tel. 048 780 2091 Fax. 048 668 2323



<https://www.bonsai-art-museum.jp>



〔交通案内〕

電車: JR 宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分
東武アーバンパークライン「大宮公園駅」下車 徒歩10分

車: 首都高速埼玉新都心線「新都心西」出口より約6km
東北自動車道「岩槻」出口より約9km

駐車場: 一般車 39台(2時間まで無料)、
大型車 3台(880円)、障害者用 2台(無料)

このチラシは、3,000部作成し、1部当たりの印刷経費は7円です。